

# 統合型ハイブリッド・マルチクラウド運用モデルで ITの複雑性を簡素化

## 統合プラットフォームであらゆるワークロードに対応

選択的または偶然の結果であっても、現在の企業の大半は複数のIT環境で活動しています。より多くのデータセンター、クラウドプロバイダー、そしてエッジロケーションが毎日のように追加されている状況に加え、新しいアプリやデータが爆発的に増加し続ける中、こうしたインフラストラクチャーは極端にその複雑性を増し、保守費用の高額化が進んでいます。今求められているのは、完全なデータガバナンスを提供し、希少なITスキルセットを最適化して、条件の変化に応じて容易にワークロードを移行するための俊敏性を伴う、新しい運用アプローチです。簡潔に述べると、これがハイブリッド・マルチクラウドアプローチです。統合型運用プラットフォームを採用することで、現代の企業はこうした要件をすべて満たし、自社の混在環境の運用コストを削減できます。

### ITインフラストラクチャーの現状

主流となっているのは、ハイブリッド・マルチクラウドITモデルです。最近実施されたNutanix Enterprise Cloud Index (ECI) 調査によると、企業の60%以上が複数のITインフラストラクチャーを利用しているものの、それは必ずしも意図的なものではありません。この割合は、近い将来、ほぼ4分の3 (74%) にまで増加することが予想されています。こうした複雑な混在環境において、従来型アプローチによるデータ、アプリケーション、およびインフラストラクチャーの管理が期待通りにいかない理由は複数考えられます。

### 変化の複雑さ

ワークロードの配置は、ビジネスにとっての競争優位になり得ます。これは、コスト、セキュリティ、ガバナンス、ビジネス継続性、パフォーマンス、などの不確定要素の変化に関連したアプリケーションの要件を最もよく満たすことができるインフラストラクチャが、内部および外部の決定要因の変化に伴って変化するためです。

例えば、現在の大多数の組織と同じ道を歩んでいる組織であれば、おそらくは1つ以上のパブリッククラウドサービスを採用して、ITリソースの迅速な立ち上げ、市場投入期間の短縮、特定の地理またはデータソース近くでの運用、キャパシティの季節的増加、そして事前のIT資本投資からの解放にこれを活用してきたのではないでしょうか。しかし、パブリッククラウドは、このようにビジネスが保持し続けたいと願う重要なメリットを提供できる一方で、次のような新しい課題も生み出しています。

- 異なるプロバイダーのクラウドプラットフォームを利用する場合、特殊なITの専門知識が求められるのが一般的です。クラウド特有のスキルセットが無ければ、単一のプロバイダーによるロックインに陥る可能性が高く、俊敏性、購買力、ITケイパビリティ、そして成功が阻害されてしまいます。
- 利用しているアプリケーション次第では、パブリッククラウドでワークロードを長期にわたって保守する過程でワークロードの特性が把握されていく中、その費用はプライベートインフラストラクチャーと比べて著しく高額になるということが、長年のクラウド体験から明らかになっています。このため、継続的な最適化には、クラウド間でのワークロードモビリティが必要不可欠となります。しかし、1つのプラットフォーム向けに構築されたアプリを別のプラットフォームに移行させる場合、それは概して困難で高額、かつ多大な時間を要します。

企業の60%以上は  
複数のITインフラ  
ストラクチャーを  
利用している。

## IT慣行とデータトレンドの不一致

従来のIT運用慣行は、IT機能を専門知識、データ、および責任領域のサイロに分割します。現在のプライベートおよびパブリッククラウドインフラストラクチャーが混在する状況を踏まえると、このように分断されたプロセスは組織にとっての阻害要因となっています。こうしたプロセスは、オンプレミス、コロケーション、エッジ、ブランチ、およびパブリッククラウドインフラストラクチャーにますます広がっている、あらゆるデータとアプリケーションにまたがる運用に対して包括的に対処していません。

これは、あらゆるデータと運用に関する可視性の制限、俊敏性の低下、そして複雑性とコストの増加という意図せぬ結果をもたらしています。こうした状況から、IT運用に対する新たなアプローチが求められています。

## 新しいIT運用原則が求められている

当然のことながら、ITに対する現代的なアプローチでは、AIドリブンな運用および自動化を活用することで、反復的タスクの削減、人的な専門知識の取得および模倣、そしてビジネスの迅速な拡張を実現できなくてはいけません。しかし、推奨事項はこれだけに留まりません。

### 単一の統合型運用プラットフォーム

重要なのは、新しい運用モデルが、あらゆるアプリケーションとデータを実行するための单一かつ統合された場所を提供できなくてはいけないという点です。これはつまり、基盤となるさまざまなインフラストラクチャーの技術的な違いにIT部署が対処することなく、あらゆる場所でアプリとデータを実行するための標準的かつ合理化されたプロセスを可能にするモデルを意味します。

エンタープライズIT部署は、すでにこうしたプラットフォームの必要性に気付いています。これは例えば、[ECI調査](#)に回答したほぼすべてのITプロフェッショナル（94%）が「クラウドをまたいで、あらゆるアプリケーションとデータを実行・管理できる単一の場所があれば組織にとって理想的である」と回答していることからも明らかです。各インフラストラクチャーの技術基盤に左右されない単一のインターフェース、一貫性あるツール、そして共通したベストプラクティス慣行を備えることで、特定のプラットフォームに「はまって」しまう状況、あるいは異なるクラウドの管理またはアプリのリファクタリングに膨大な時間と特殊な専門知識が必要となり組織の競争力が損なわれる状況を回避できるようになります。

### インフラストラクチャー全体に対する可視性

共通のハイブリッド・マルチクラウド運用プラットフォームは、広範なデータおよびアプリケーションファブリックにまたがる包括的な可視性も提供できなくてはいけません。可視性が無ければ、企業は所与のワークロードとそのデータが、現在コスト最適化されたインフラストラクチャーサービスで果たして実行中であるのか分からず、アクティブもしくは不要となつたさまざまなワークロードを把握することさえもできなくなります。また、実際のITチームの閑知しないうちに、別部署で「シャドーIT」がクラウドインスタンスを作成してしまう可能性もあります。このようなクラウドインスタンスは最適なサービスもしくはサービスティアとマッチしていないか、関連する必須のセキュリティおよびガバナンスポリシーを備えていない可能性があり、いずれの場合でもリスクを生み出しまいます。

クラウドをまたいで、あらゆるアプリケーションとデータを実行・管理できる単一の場所があれば組織にとって理想的である。

[ECIレポート](#)



## 一度開発した後は、どこでも実行できる

プラットフォームでは、アプリケーションを一度開発した後、基盤となる全てのプライベートまたはパブリッククラウドのIT環境で実行できるようにすることで、繰り返し開発する労力ならびにそれに必要とされる特殊な専門領域を回避できなくてはいけません。

## 抽象化のシンプルさ

統合型ハイブリッド・マルチクラウド運用プラットフォームは、各クラウドプラットフォームに固有の専門性および複雑性を抽象化する仕組みを備えています。プラットフォームの作成者は、基盤となるさまざまなプラットフォーム間における舞台裏での開発および転換をすべて引き受けます。その後、統合モデルは法人顧客が利用する主要プロセスに共通のインターフェースを表示させることで、データまたはワークフローの常駐場所に関わらず、顧客が以下の機能を迅速かつ一貫して実行・監督できるようにします。

- プロビジョニング、コンフィグレーション、パッチ適用、およびライフサイクル管理
- 運用管理、キャパシティプランニング、コストガバナンス、開発者のセルフサービス
- サイバーセキュリティ(ポリシーの設定および施行を含む)
- データの保護、バックアップ、およびリストア
- 異なるクラウドプラットフォーム間のアプリケーションおよびソフトウェアライセンスの移行
- ディザスタリカバリ
- 計画外ダウンタイムのトラブルシューティング

最終的に、プラットフォームはハイブリッド・マルチクラウドの展開、管理、およびあらゆる関連のITプロセスを簡素化・加速化させることで、時間と費用を抑えます。ITスキルセットが希少な時代において、これは使用されているクラウドごとのサイロの管理、および／または最適化のために移行すべきアプリケーションのリファクタリングのためだけに、複数のクラウドプラットフォーム専門家を抱える必要性を排除できます。

Nutanix Cloud Platformは、企業によるデータセンターのモダナイズ、すべてのクラウドの統合、そしてあらゆるインフラストラクチャーにおける規模を問わないアプリケーションの実行を可能にします。



## Nutanix: 統合プラットフォームであらゆるワークロードに対応

今回説明した抽象化ケイパビリティは、現在Nutanix Cloud Platform (NCP) で利用可能です。NCPは、オンプレミス、エッジ、マネージド/ホステッドデータセンター、およびパブリッククラウドにおける共通の運用を可能にする、単一の管理プレーンを備えたフルソフトウェアスタックです。

このプラットフォームは、VMまたはコンテナに関するコンピューティング、ストレージ、ネットワーク、およびサポートを提供します。ビルトイン型の回復力、自己修復、ディザスタリカバリ、そしてセキュリティも含まれます。統合型ストレージサービス（ブロック、ファイル、オブジェクト）、サービスとしてのデータベースのケイパビリティも備えています。

NCPには、インテリジェントな運用、セルフサービス、コストガバナンス、そしてセキュリティなどのハイブリッドクラウド管理のケイパビリティも含まれています。このプラットフォームは長年にわたって、プラグアンドプレイのハイブリッド・マルチクラウド運用を可能にしてきましたが、これには現在ご利用中のプライベートクラウドと同一のインターフェースを利用したAmazon Web Service (AWS) とMicrosoft Azureのパブリッククラウドサービスの管理も含まれています。AWSとAzure向けにNCPとそのNutanix Cloud Clusters (NC2) ケイパビリティを利用することで、プライベートなオンプレミス、コロケーション/ホステッド、およびエッジロケーションでワークロードを展開、管理、セキュリティ保護するのとまったく同じ方法で、パブリッククラウド内でも展開、管理、セキュリティ保護を実現できます。

共通のインターフェイスにより、どのデータがどこにあるか、パフォーマンス、セキュリティ、その他のニーズ、および現在のクラウドプロバイダーの価格に基づいてワークロードがコスト最適化されているかどうかを可視化できます。プライベートクラウドとパブリッククラウド間、または異なるパブリッククラウド間でアプリとワークロードを移行する際は、アプリケーションのリファクタリングは不要です。

## Nutanixの強み

Nutanixは、企業が自社のアプリケーション、データ構造、そしてクラウドを1つの一貫したクラウド運用モデルで管理できる自由を提供します。受賞歴を誇るカスタマーサポートは、パブリッククラウドへのワークロードのシームレスな移行を促進することで、迅速かつ費用対効果に優れたプロセスを実現します。

<b>43%</b> 5年間のTCO 削減率*	<b>53%</b> IT管理の効率性の 増加率*	<b>最大60%</b> ワークロー ド移行が迅速化**
-------------------------------	---------------------------------	------------------------------------

\* 出典: IDCホワイトペーパー: Nutanix Cloud Platformのビジネス価値 (2022年10月)  
\*\* Nutanixが顧客から報告された結果に基づき算出して推計



## 私たちの違い

Nutanix以外にも、ハイブリッドクラウド管理プラットフォームを販売する企業は存在します。マルチベンダープライベートインフラストラクチャーのみを専門に扱う会社もいます。統合型プライベートおよびパブリックリソースの可視性、そして最新のクラウド価格に基づく動的なコスト比較や推奨を提供する企業もいます。また、複数のクラウドで事業活動を行う企業がいる一方で、そのマネジメント、ライセンス管理、プロセスはそれぞれに特有のものです。こうした企業は、Nutanixが提供する内容のごく一部しか提供していませんが、その違いは、Nutanixがハイブリッド・マルチクラウドの課題を最初から最後まで、あらゆる側面に関して徹底して熟慮してきたことで生まれるものです。この過程で、Nutanixはあらゆる展開先に対応した共通の運用モデル、データ構造、そしてサービスを作成して、ハイパーバイザー、Kubernetesの分散、ハードウェア、クラウドの選択肢も提供してきました。

## 完全なソリューション、豊富なデータサービス、ポータブルなライセンス管理

Nutanixは、当社のプラットフォーム上で実行可能な一覧のサービスと共に、クラウド消費ベースの運用モデルが持つ完全性を提供します。繰り返しになりますが、こうしたサービスは異なるベンダーのサイロ化した個別のケイパビリティを寄せ集めるよう強いることはなく、同一の管理プレーンを利用します。以下は、NCPで利用可能な付加価値サービスの例です：

- サービスとしてのデータベース (DBaaS)
- ファイル、ブロック、およびサービスとしてのディザスタリカバリ (DRaaS)  
向けS3互換のオブジェクトオプションを含む、統合型ストレージサービス
- Kubernetesデータサービス

あらゆるインフラストラクチャーまたはクラウド上でソフトウェアを実行したいと考えた場合、Nutanixは無駄や非効率、そして柔軟性不足につながる個別のサイロ化した購入を伴わずに、独自のポータブルライセンス管理ケイパビリティを提供して希望を叶えることができます。

## パートナーシップの幅

Nutanixは、インフラストラクチャーとサービスの幅の広さを考慮した、重要なパートナーシップも結んでいます。例えば、エッジおよびデータセンターにおけるAIの台頭を受け、GPUハードウェアと関連のソフトウェアソリューションスタックが必要となる中、NutanixはNVIDIAと提携することで、企業が生成的およびその他の推論するAIおよびAI/機械学習アプリケーションの採用時に直面する、複雑性、拡張性、セキュリティ面での課題に対処しています。

同様に、NutanixはRed Hatとも提携することで、企業がエッジ、データセンター、およびクラウド環境をまたいで従来型およびクラウドネイティブのアプリケーションを構築・拡張・管理できるよう、統合型のオープンなハイブリッドクラウドスタックを提供しています。その他にも、パブリッククラウドに関してはAWS、Microsoft、Google、そしてその他のクラウドオプションに関してはサービスプロバイダーおよびグローバルシステムインテグレーターとそれぞれ提携しています。また、ハードウェアのオプションに関してはHPE、Cisco、Lenovo、富士通、Dell、Intel、AMD、およびその他のベンダーと提携しています。Citrix向けハイブリッド型のサービスとしてのデスクトップ (DaaS) エンドユーザー・コンピューティングソリューションは、より多くの選択肢とソリューションの幅を提供しています。



## まとめ

ハイブリッド・マルチクラウド環境は、企業が各ビジネスワーカーの固有な要件を満たす上での必需品として急速に広がっています。企業は、専用のスタッフ、プロセス、ツールを用いて、それぞれの分散型IT環境を個別に運用する場合の費用および時間的制約を回避するため、すべてを同一の方法で表示・運用できる統合管理プラットフォームを必要としています。Nutanixは、運用を簡素化してビジネスの俊敏性を実現しながら、オンプレミス、パブリッククラウド、ハイブリッド環境、およびエッジにまたがるアプリとデータを実行できる単一プラットフォームを提供することで、この約束を果たします。

ハイブリッド・マルチクラウド環境でNutanix Cloud Platformをお試しいただくは、

[nutanix.com/jp/one-platform](https://nutanix.com/jp/one-platform)にアクセスしてください。



[contact-jp@nutanix.com](mailto:contact-jp@nutanix.com) | [www.nutanix.com/jp](http://www.nutanix.com/jp) | [@nutanixjapan](https://@nutanixjapan)

©2024 Nutanix, Inc. All rights reserved. 本文書に記載された、Nutanix、Nutanixのロゴ、およびNutanixのその他全ての製品、提供機能、およびサービス名は、米国およびその他の国においてNutanix, Inc.の登録商標または商標となります。本文書に記載された、その他のブランド名は、識別目的のみに使用されており、それぞれの所有者の商標となります。  
COR-HMC-HybridMulticloud CorporateNarrative-InfoBrief-v4\_ja-JP\_05172024